第43回 モンテベロ市学生親善使節が決定しました

問い合わせ　市民参画課国際交流担当　☎38-2008/FAX38-2175（大原町2-6　ラ・モール芦屋２階）

ホストファミリーを募集します

モンテベロ市からの学生親善使節は、８月１日から約３週間、芦屋に滞在します。ホームステイ（約１週間）させていただける市内の家庭を募集します。引き受けてくださるご家庭には、１泊・2,000円の補助金をお支払いします。

【説明会】 **■日時**　６月３日（日）午後１時～３時　**■会場**　国際交流協会　**■申し込み**　事前予約をファクスで上記へ

■第43回モンテベロ市学生親善使節に八木大輔さん・三宅洋基さん

学生親善使節事業がスタートしたのは、昭和三十九（一九六四）年です。今まで、百七十二人のかたが学生親善使節としてお互いの市を訪問しています。今年は、八月の三週間、モンテベロ市内の家庭（一週間×三家庭）にホームステイし、市長表敬訪問および二世パレードなどの交流事業に参加します。

本年度の学生親善使節に選ばれたかたは、次の二人です。

◆八木　大輔さん（高等専門学校生　緑町）

［抱負］日本の文化と芦屋の歴史、スポーツや子どもたちについて、伝えたいことがたくさんあります。「ぜひ、芦屋に行ってみたい！」と、モンテベロ市の皆さんに感じてもらうことが私の役目です。貴重な体験を与えてくれる〝私たちのまち芦屋〟に感謝しています。

◆三宅　洋基さん（大学生　平田町）

［抱負］この度、私の生まれ育った芦屋市を代表してモンテベロ市との学生親善使節に選ばれた事は、非常に光栄で嬉しく思います。芦屋市とモンテベロ市の親交が、より良いものになるよう、自分なりに力を尽くしたいと思います。

あしやの民話⑪　かえる岩

●文・三好美佐子さん
●絵・竹本　温子さん

昔なぁ、六甲山に、それは大きなかえるが住んでいたそうな。

大きなかえるなもんで、跳ぶと地響きし、鳴くと木の葉が震えた。そうやから、「大がえるがおる。」と、すぐ分かったという。

みんなからは、怖がられる大がえるやったから、毎日、のんびりと暮らしておった。

たまに出会う人があっても、自分から逃げだし、決して悪さや脅かしなど、することはなかった。

ある日のこと、大がえるは、えらいことを聞いた。なんでも大蛇が、大がえるの命を狙っているという。

それを聞いてから、ちょっとのことにでも怖がって、ビクビクして暮らすようになった。

その大蛇が、大がえるのいる六甲山の梅谷にやってきた。

スルスルと、地面に体を滑らせ、かまくびをもたげ、舌をヒュルヒュルさせながら、岩かげから、大がえる目がけてやってきた。

大がえるも、それに気付いた。もう逃げられないと、体を硬くした。

どんなに大きなかえるといえども、大蛇にはかなわん。

ぐるぐる巻きにされ、しめられ、最期にはパクリと食べられてしまう。

大がえるは、死を覚悟して、目をつぶった。

ところが、その一瞬、大がえるは岩になった。

六甲の山の神さまは、日ごろおとなしい大がえるをあわれに思われ、そのままの姿で、岩にされた。

ごちそうにありついたとニタニタやってきた大蛇は、岩になった大がえるに歯もたたず、悔しがって、ここに住むことにした。

それからしばらくして、ある村人が、たきぎを取りに、山にきた。

かえる岩のところで、ひと休みしたが、ついうとうとと、昼寝をしてしもうた。

そのうちに、ふと目をさますと、なんと、大蛇が、かえる岩にまきついて、上からこちらをうかごうておる。

「ひゃあ、えらいもんが、見とるやないか。」

と、命からがら逃げた。

村人は、家にとんで帰り、ふとんに頭をつっこんで、震えておった。

このことが、村中に広まると、「それは、えらいこっちゃあ。」と、村の若いもんが、手に手に棒切れを持って、山に入った。

ところが、若いもんが、梅谷に着くと、大蛇はどこにもおらん。探してもおらん。

どこへ逃げたのかと、よくよく見れば、かえる岩に巻きついておった。それも、大蛇は岩になっておった。

そんなことがあってから、かえる岩は、蛇巻岩ともいわれるようになったという。

山の神さまは、大がえるだけでなく、大蛇も分け隔てなく、岩にしてしまわれた。

梅谷のかえるも、蛇も、仲よく岩となった身では、けんかもできず、おたがいに食べられることもなく、平和な日々を過ごしているのやろ。

●「あしやの民話」は、芦屋に語り伝えられていたお話を、三好美佐子先生をはじめ、民話を研究するグループの皆さんが収集整理して、やさしく民話の形に整えられ、平成十一年に発行されたものです。

谷崎潤一郎記念館の催し

問い合わせ　谷崎潤一郎記念館　☎23-5852/FAX38-3244
Ｅメール　ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp

【文学館講座】　薬師寺・心のふるさと講話

■日時　５月29日・６月19日・７月10日・８月21日（火）＜写経＞午後１時～２時＜講話＞午後２時～３時30分　**■会場**　谷崎潤一郎記念館講義室　**■講師**　法相宗大本山薬師寺執事・生駒基達師　**■内容**　心のよりどころ、生き方など玄奘三蔵の伝法仏の教えを学ぶ　**■受講料**　１回のみ受講・2,500円、４回受講・8,000円（いずれも写経代別）　**■定員**　20人　**■会場・申し込み**　ファクスかＥメールで上記へ

【文学館講座】　井上正三　スケッチ講座

■日時　５月30日・６月13日・27日（第２・４水曜日）午前10時～正午　**■会場**　谷崎潤一郎記念館講義室　**■講師**　画家・井上正三氏　**■内容**　水彩画を基本から楽しく学ぶ　**■受講料**　2,500円（３回分前払い）　**■定員**　16人　**■会場・申し込み**　ファクスまたはＥメールで上記へ

【源氏物語千年紀記念企画】「女君に魅せられて」〈第２回〉

■日時　５月25日（金）午後２時～４時　**■会場**　谷崎潤一郎記念館講義室　**■講師**　たつみ都志副館長　**■内容**　４回シリーズの第２回目。挑む女に魅せられて「朧月夜」　**■受講料**　2,000円　**■定員**　30人　**■会場・申し込み**　ファクスまたはＥメールで上記へ

【ロビーギャラリー】　慧善玄潭（えぜん げんたん）　写実と幻想の仏画展

■展示期間　５月23日～６月17日＜月曜日休館＞午前10時～午後５時（入館は午後４時30分まで。※最終日は午後３時まで）　**■会場**　谷崎潤一郎記念館ロビーギャラリー　**■展示内容**　僧侶であり画家でもある慧善玄潭の作品展　**■入館料**　300円

第18回　富田砕花賞　全国から詩集を募集します

市では、平成２年に詩人・富田砕花生誕100年を記念し「富田砕花賞」を創設しました。平成16年からは、市に代わり「富田砕花顕彰会」主催で、引き続き顕彰事業を実施しています。本年も、詩集を募集します。ご応募ください。

■対象　平成18年７月～本年６月末日までに発行した詩集（翻訳、アンソロジー、復刻、遺稿詩集等は除く）　**■賞・賞金**　正賞・賞状　副賞・50万円　**■応募方法**　詩集２冊（返却不可）を７月31日（火）＜消印有効＞までに、氏名・住所・電話番号を明記し、下記へ送付してください。

富田　砕花 氏

■選考委員（50音順）　**伊勢田史郎氏**（詩人・ＮＨＫ神戸文化センター講師）
杉山平一氏（詩人・帝塚山学院大学名誉教授）
安水稔和氏（詩人・「歴程」同人）

◆富田砕花顕彰会では、「富田砕花賞」等顕彰事業を継続していくため、広く寄附を募っています。１口・1,000円ですが、何口でもお受けできます。皆さんのご支援・ご協力をよろしくお願いします。

尼崎信用金庫　阪神芦屋支店　普通預金　№0224593　富田砕花顕彰会

問い合わせ　富田砕花顕彰会事務局　☎38-2091（生涯学習課内）/〒659-8501 住所不要

広告

歴史文化セミナー（甲南大学文学部教員による）　**無料**

■会　場　市民センター　１３時３０分～１５時
第１回 401号室　第２回 301号室　第３回 401室

■第１回６/２（土）講師　猪野瀬久美恵氏（甲南大学文学部教授）
「奴隷貿易廃止200周年の記憶―あるイギリス地方都市の試み」

■第２回６/16（土）講師　東谷　智氏（甲南大学文学部講師）
「古文書が語る世界―人々は文字以外に何を残したのか」

■第３回６/23（土）講師　出口　晶子氏（甲南大学文学部教授）
「海から眺める―瀬戸内海世界とは」

お申し込みご希望は フリーダイヤル　0120-57-4946 FAX 0797-31-4947

◎受付は先着順で行いますので、お早めにお申し込みください。　定員:100人程度

■主催　ニュースサービス日経芦屋
〒659-0068 兵庫県芦屋市業平町6-17

NSN ニュースサービス日経 芦屋